

ミツカン×法政大学

みず・ひと・まちの未来モデル

研究成果発表

法政大学

野田岳仁ゼミ

2024年1月1日 能登半島地震

災害が浮き彫りにした

上水道の脆弱性

内閣官房・国土交通省は

災害時地下水利用ガイドライン

～災害用井戸・湧水の活用に向けて～



を発行



地方自治体はこのガイドラインを参考にすると想定される

全国で整備が進む防災井戸

しかし、その多くは・・・

非常時専用



取っ手が外された中央区の防災井戸

都内でも、取っ手が外されたり、シートがかぶされていたりする
あくまで非常時＝隠れた存在であることが少なくない

日常的に井戸を使わないことのリスク

 1 水質の悪化

 2 砂のつまり

 3 故障の未発見

いざというときのための防災井戸であるにもかかわらず

➡ “いざというとき”には **使えない可能性**

隠された井戸はその典型例

防災井戸を・・・

隠された存在・非常用装置



日常に埋め込まれた存在へ

発想の転換が必要

本研究の目的

防災井戸は
どうすれば**日常**に根付くのだろうか？

なぜ「**防災井戸**」である**京都の銅駝水**は
非常時の備えではなく、
地域の日常生活に根付いているのか？
その理由を明らかにしていきたい

歴史的な井戸が数多く残る京都 もっとも住民の日常利用に根付いた3つの井戸

そめい
染井



神社の手水

ごりょうすい
御霊水



神社の手水

どうだすい
銅駝水



防災井戸

染井・御霊水・銅駝水は
京都御所と鴨川の間位置

井戸の深さはいずれも8メートル



日常利用に根差した3つの井戸①

梨木神社の「染井」





梨木神社の染井

梨木神社の手水

京都御所の東側すぐに位置している
御所三名水のひとつとして知られる

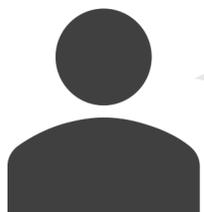
2024年10月31日(木)

6時から18時までの12時間の利用者数

136人の利用

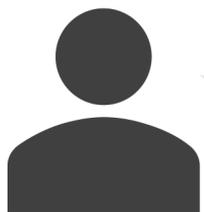
(野田研究室による利用実態調査による)

利用者の声…



コーヒーの味が変わる

水道水よりもまろやかでおいしい



お米を研ぐときに使っている

**昔から料理人にも多数利用される名水
多様な人びとの食の営みを支えている**

日常利用に根差した3つの井戸②

下御霊神社の「御霊水」





下御霊神社の御霊水

下御霊神社の手水

200年前に掘られた井戸は1940
（昭和15）年頃に枯れた

1992年に手掘りで復活

2024年10月31日（木）

6時から18時までの12時間の利用者数

108人の利用

（野田研究室による利用実態調査による）

実際に汲みに来た方は…



長女がこの水が好きだから月3回汲みに来ている

緑茶で使うと臭みがなくておいしい

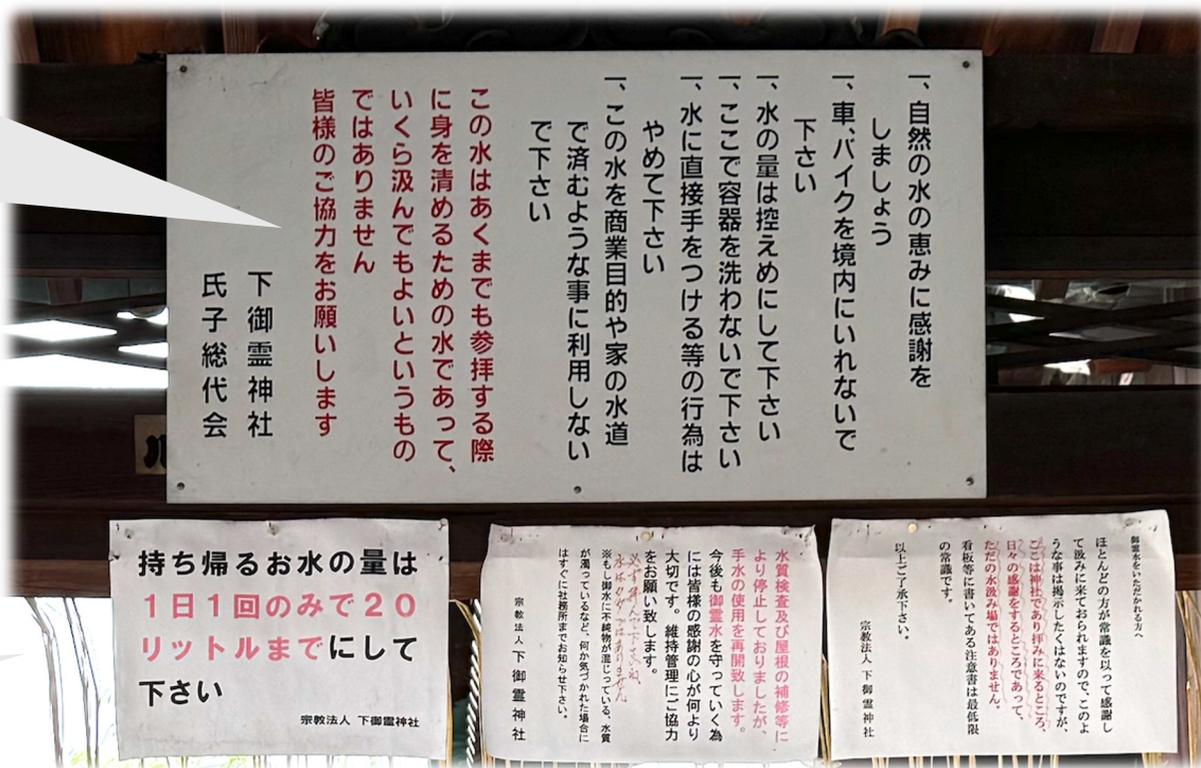


手水であるにもかかわらず、
ほとんどの利用者が飲用、料理用として利用している

本来の機能とは異なるからこそ 利用量の制限やマナーの遵守がよびかけられている

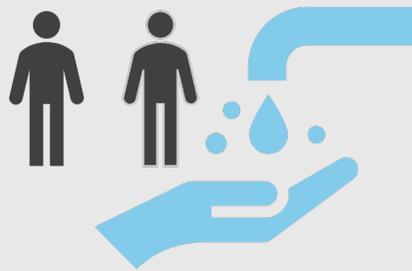
この水はあくまでも参拝する際に
身を清めるための水であって、
いくら汲んでもよいというものでは
ありません

1日1回のみで
20リットルまで



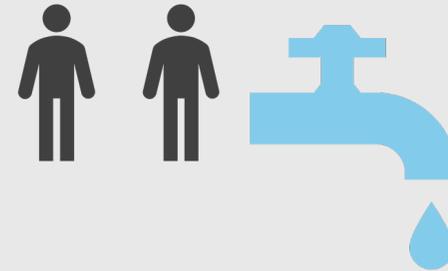
染井と御霊水は
なぜこれほど多くの人びとに
日常的に利用されるのか？

本来の用途



参拝者のお清め

実際の利用



飲用水・料理用

染井も御霊水も・・・

神社の手水を参拝者に限らず、
不特定多数に開くことによって
本来の機能とは異なる利用が許容されている



人びとの日常に根付く

防災井戸のように、特定の機能（単機能）に利用を限ることは
得策とはいえないのかもしれない・・・

日常利用に根差した3つの井戸③

防災井戸 「銅駝水」





銅駝水

銅駝自治連合会による
銅駝学区住民のための「防災井戸」

にもかかわらず日常的に開かれ・・・

2024年10月31日(木)

6時から18時までの12時間の利用者数

157人の利用

(野田研究室による利用実態調査による)

1時間あたりの利用人数 **13人**



1995年阪神・淡路大震災

銅駝学区の住民が被災現場へのボランティアへ
水の確保の困難さを目の当たりに…

万が一に備えて水を確保しよう

銅駝学区に防災井戸を設置することを決める



銅駝会館（いわゆる公民館）前に設置

① 誰でも自由に使えるように
道路側に蛇口を設置

② 募金箱の設置
「地下水管理費協力金」



地下水管理費協力金の使い道

- 年2回の水質検査（PFAOおよびPFAS含む）
- 停電時の手押しポンプの切り替え装置

停電時は使えなくなるため、
手押しポンプの切り替え装置を導入

- 飛び出し防止用看板
（飛び出し坊や）
- ソーラー安全灯

ソーラー安全灯は毎日16時になると点灯し、
翌朝まで消えない。公園で遊ぶ子どもたちには
家に帰る合図になるし、防犯上の備えとなる



銅駝会館の地下水のご利用についてのお願い

銅駝自治連合会

この地下水は災害時に活用すべく開設いたしました。設備の維持管理は当自治連合会が行っております。皆様の平時での地下水のご利用を歓迎しておりますと同時に、ご利用に際しては協力金についてもお願いしているところです。

しかしながら設備の維持管理、水質検査には限界がございますので、ご利用に際しては皆様の自己責任のご利用とさせていただきます。

皆様、災害時に活用するこの設備に、どうかご支援、ご協力をよろしくお願いたします。

皆様のご厚志により、以下のものを設置することができました。



協力金の使い道はその都度掲示板で報告

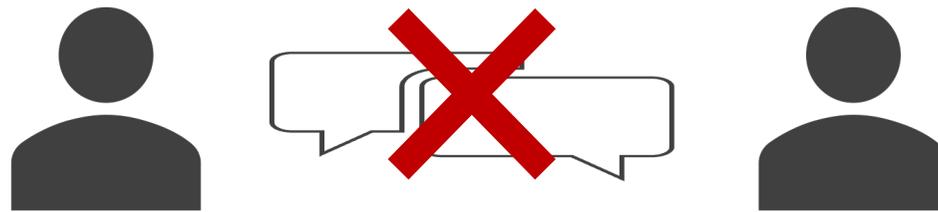
銅駝水には「井戸端会議」のような
住民同士の相互交流は
あまりみられない

にもかかわらず…

「日常生活」のなかに埋め込まれている

つまり・・・

相互交流がなくても



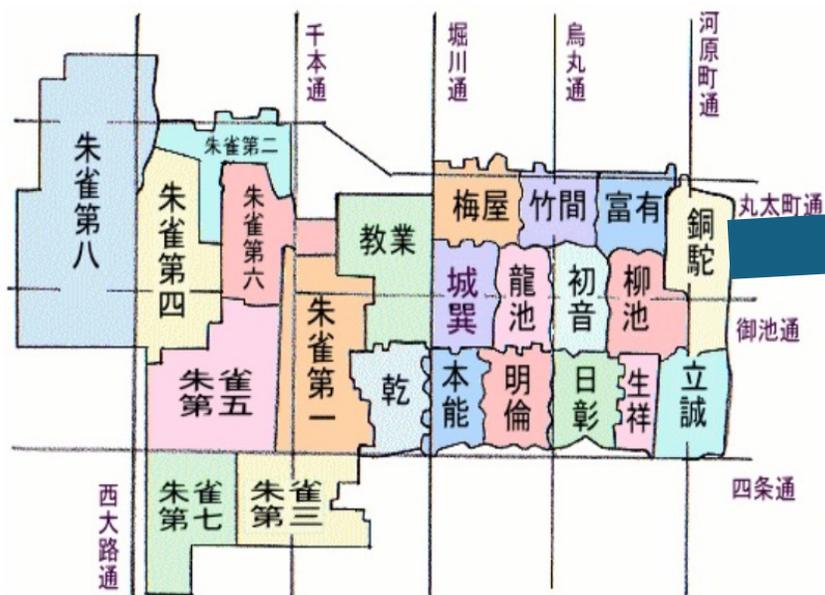
なんらかの「仕掛け」

防災井戸が有効に機能しうる
関係性に依存しない新たな共助空間のあり方の可能性

その「仕掛け」とはどのようなものか？

銅駝自治連合会（銅駝学区）の
防災井戸に対する考え方に注目

銅駝自治連合会 (銅駝学区) とは



東は鴨川、西は寺町通東側、
北は丸太町通の一筋南にある
御霊岡子通から南は三条通の
手前までに囲まれた小学校区

コミュニティ政策の単位

4ブロックに分けられ
25自治会で構成される

約1250世帯、3800人
自治会加入率：85%

銅駝自治連合会の活動

- 銅駝会館、銅駝史料館の管理運営
- 学区民盆踊り大会の実施
- 敬老事業
- 安全安心街づくり事業



学区民盆踊り大会



敬老事業すこやかサロン

(銅駝自治連合会の総会資料より)

特筆すべきことは・・・

安全安心街づくり事業

(銅駝自治連合会の総会資料の表現では「安全安心」、HP上や銅駝学区民のみなさんは「安心安全」と表現されている)

- ・ 地域の見守り運動
- ・ 防犯カメラの設置
- ・ ソーラー安全灯の設置
- ・ 飛び出し坊やの設置

ソーラー安全灯と飛び出し坊やの設置は
募金による「地下水管理費協力金」から捻出

再掲 地下水管理費協力金の使い道

- 年2回の水質検査（PFAOおよびPFAS含む）
- 停電時の手押しポンプの切り替え装置

停電時は使えなくなるため、
手押しポンプの切り替え装置を導入

- 飛び出し防止用看板
（飛び出し坊や）
- ソーラー安全灯

ソーラー安全灯は毎日16時になると点灯し、
翌朝まで消えない。公園で遊ぶ子どもたちには
家に帰る合図になるし、防犯上の備えとなる

すべて安心安全へのこだわり



銅駝会館の地下水のご利用についてのお願い

銅駝自治連合会

この地下水は災害時に活用すべく開設いたしました。設備の維持管理は当自治連合会が行っております。皆様の平時での地下水のご利用を歓迎しておりますと同時に、ご利用に際しては協力金についてもお願いしているところです。

しかしながら設備の維持管理、水質検査には限界がございますので、ご利用に際しては皆様の自己責任のご利用とさせていただきます。

皆様、災害時に活用するこの設備に、どうかご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

皆様のご厚志により、以下のものを設置することができました。



協力金の使い道はその都度掲示板で報告

さらに・・・

災害時の避難場所としての災害時協定を結んでいる

○銅駝学区内の8つのホテル

(ザ・リッツ・カールトンやホテルオークラなど)

災害時に体調の深刻な学区住民を優先的に避難させるため

○学区内のパチンコ店

洪水や鴨川氾濫の際には屋上にある駐車場に自家用車を避難させるため

災害時に住民を守るための活動に徹底してこだわっている

なぜこれほどまで安心安全にこだわるのか？

3つの災害経験



阪神・淡路
大震災



鴨川の氾濫



繁華街の
火事

すなわち・・・

銅駝自治連合会の基本原理



安心安全

この防災井戸を設置した経緯を振り返れば、紛れもなくこの基本原理が
体現されたものであるし、協力金の使い道もこの原理に基づいている

結論

なぜ「防災井戸」が非常時の備えではなく、
地域の日常生活に根付いているのか？



防災井戸が安心安全という
地域の基本原理を体現する装置
として位置づけられているから



井戸を開く

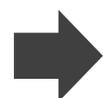


日常に根付く



井戸を開く

+ 基本原理「安心安全」



日常に根付く

単に「防災井戸」が設置され、自由に汲めるように整備されていたとしても必ずしも日常に根付くとはいえない

防災井戸の実効性を高めるには、**当該地域の基本原理を言語化し、**
その原理に接続させ、井戸を
「日常装置」として位置づける必要

銅駝水は、**非常用装置ではない**
日常の実践においてこそ機能が発揮



銅駝自治連合会では
防災井戸を日常から「**使い続ける**」こと
が災害への**もっとも確かな備え**となっている

提言のまとめ

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開